

のぼりべつ文化交流館カント・レラ ～遺跡を使った学習活動～

のぼりべつ文化交流館カント・レラは、平成19年6月に旧登別温泉中学校を改修し、オープンした複合施設です。メインは、1階の博物館になります。カント・レラは、市内に歴史をメインとした博物館(登別市郷土資料館)があることから、差別化を図るため遺跡・考古学に特化した展示・活動を行っています。

1 館内での活動

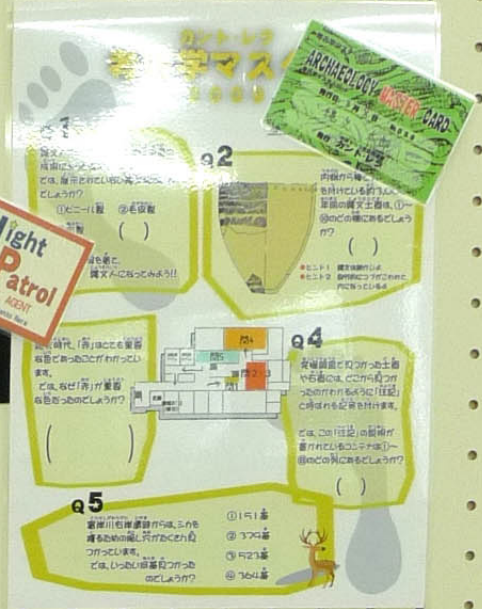
展示以外の館内での学習活動としては、縄文文化に関する「体験学習」を月1回と季節限定で行っています。当館での体験学習の目的は、モノ自体の完成度を求めるものではなく、モノ作りという経験を通して、より興味・関心を深めてもらうことを目的としており、体験学習は目的ではなく、手段の1つと捉えています。

カント・レラでの今年度の活動

- 4月 まが玉をつくらう!!
- 5月 シカの角でアケササリをつくらう!!
- 6月 粘土で縄文小物をつくらう!!
- 7月 縄文模様カードをつくらう!!
考古学マスター2009
- 8月 ナイトパトロール
- 9月 縄文土器をつくらう!!
- 10月 黒曜石でナイフをつくらう!!(登別縄文どきどきまつり)
- 11月 もっとまが玉をつくらう!!

例 黒曜石のナイフづくり

内容	説明
ナイフを作る	参加者にはガムテープとマジックで名札をつけてもらいます。他人同士でも一体感があります。はじめに作り方を教えるために手本を見せる際、視覚と聴覚に働きかけることで、子どもたちの関心を高めます。また、楽しく作ることでできる雰囲気作りも必要。
ナイフに関する話	製作終了後、出土したナイフと自分たちが作ったナイフとを比較します。当時、材料の石はどのように入手したのか、何を切っていたのかなどを話します。必ず、道具に関する話を行います。
使用[肉を切る]	最後に、作ったナイフでシャケ(前浜産)を切り、鍋料理を作ります。ナイフは、実際に切ることで初めて道具としての機能を実感することができます。「家で試して!」だと、「今、試してみたい!」という欲求を潰すことになるため、その場で使用する機会を設け、モノと使用(機能)の経験をしっかりと結び付けます。



2 館外への活動

「総合的な学習」が平成14～15年に学校教育に導入され、その学習の一環として多くの博物館で来館しての学習が行われています。しかし、授業のコマ数および博物館までの交通費を限られた時間・予算の中から用意できない場合も多いと思います。

そのような際に用いられるのが、「アウトリーチ」と呼ばれる手法です。簡単に言うと「こちらからいきます」というものです。登別市では平成17年から、この手法による「縄文出前講座」を行っています。

登別市内には29カ所の遺跡が確認されており、そのほとんどが縄文時代の遺跡です。

子どもたちに縄文人が当時使用していた土器や石器に直接触れてもらうことを通じて、「本物」から得られる感動や、自分たちが住んでいる土地に対するこれまでとは異なる視点、そして多様な好奇心を抱ききっかけをつくることを目的としています。

前半が講義で、後半に土器や石器に触れる2部構成で、基本的には1クラスずつ各教室で、普段の授業と同じ環境で行います。1クラスずつというのは、全員が土器などに触れる機会を十分維持でき、また疑問に対して対応できる適当な単位だからです。普通教室で行うのは、いつもと同じ学習しやすい環境を作るためであり、また空間的に人の輪ができやすく、適度に待つことで「見たい!」という気持ちを強めることができると考えているからです。

説明	内容
[2-3日前]	必ずクラスの担任教師と十分に話し合い、それを考慮した内容での講座とする。ここで重要なのは、教師との話し合いの時間を持つことであり、連携体制を築いていくための第一歩と捉えている。 また、この段階で、教師にもより興味をもってもらうことが重要である。平均1時間程度は話し合いを行っている。
[当日] 縄文人と自分たちとの関係	対象が自分たちとどのような関係にあるかを明確にし、なぜ学ぶ必要があるのかを知ってもらい、「縄文人は自分たちの遠いおじいちゃん・おばあちゃんなんだよ」と先祖であることを示す。また、縄文人と弥生人の男女の顔のイラストを用いて、顔の特徴をクイズ形式で見つけ出す。
生活・考え方	ただ説明するのではなく、具体的なアウトセイヤルカなどのようによく知る動植物や、寿命の話も行い、自分たちの食生活や命に対する考え方の違いや類似点を子どもたちに話し、考えしてもらい。
土器・石器に触れる	自分の住む地域から出土した、当時の人々が使用した本物の土器や石器に自由に触れてもらう。「今日は特別だよ」と限定であることを伝え、全てのモノに触りたくなるように仕向ける。触れることで初めてわかることがあり、また浮かぶ疑問があるという点からも、本講座のメインイベントとして位置づけている。ただし、道具の使用法については、こちらから答えを言うのではなく、答えを自分で出したように仕向ける。
まとめ	自分たちの学校の近くにも遺跡があり、身近なところに存在することを覚えてもらう。また、いくつかの感想や疑問を取り上げ、他の人の気持ちにも接してもらい。



3 学習効果

上記のような学習を通して得られる効果として、とくに「実体験」「気付き」「地域の活性化」をあげることができます。「実体験」は自分との関連付け、「気付き」は学びそのものであり、そして「地域の活性化」は「実体験」と「気付き」の連続の延長線上にあるものと考えています。

①「実体験」

本や教科書だけでは学習は単なる知識としての蓄積であり、自らの経験として関連付けることができません。しかし、本物に触れるなどの歴史の「実体験」により、自分と関連付けた経験として認識できるようになります。触るという5感を用いて本物に触れることにより、縄文時代と現在の数千年という時間差を一気になくし、自らの経験として位置づけることが可能なのではないかと考えています。その結果、定型的な教科書学習に比べ、本物に対する感動体験として学習の記憶が残る可能性が高いと考えています。

②「気付き」

遺跡を利用した学習活動の表面的な目的は、地域の歴史を学ぶことですが、「どうして?」「なぜ?」という疑問や発見という「気付き」を学んでもらうことを重要な目的としています。そこから一緒に考えていくことによって、子どもたちに物事に対する多様な視点を持つてもらうためのきっかけを作ることができるのではないかと考えています。

③「地域の活性化」

周囲のいつもの景色を上記のような活動を通して情報を付加することにより、これまでとは異なる視点から見るることができるのではないかと考えています。例えば、いつも通学するときに目にする畑は「実は縄文人が生活していた」と知ることにより、単なる畑から「縄文」という価値の付いた別の景色に変わる可能性があります。この点から遺跡を利用した学習活動は、自分の住む地域をより深く知る方法の1つとして捉えることができます。この活動を繰り返し、効果を強めていくことは、「地域の活性化」に繋がるものであり、まち(地域)づくりの重要な一要素であると考えています。

このような博物館における教育活動は、大人においても同様の効果があると考えられます。つまり、博物館の教育活動は、地域の力になるものであり、そして将来に対しての人づくりに結びつくと考え、活動を行っています。

苫小牧市博物館 学校との連携事業

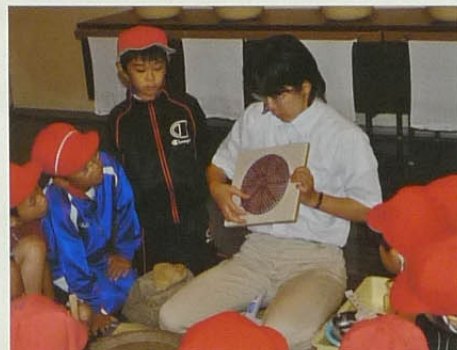
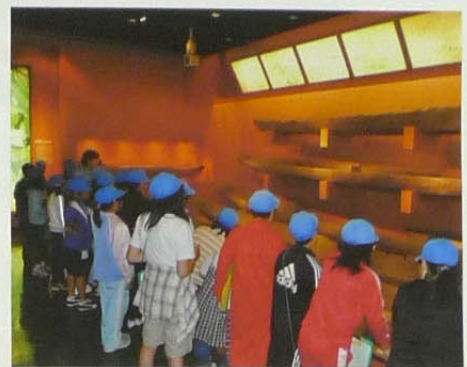
☆博物館郷土学習(平成21年度)

21校45学級1397名
(2校は3年生から4年生に移行のため来年度に実施)

平成21年度 博物館郷土学習 実施詳細

学校	学年	人数	学級数	授業日数	移動手段
明野小学校	4	75	2	1	バス
東野小学校	4	73	2	1	バス
新井小学校	3	38	1	1	バス
ウツナイ小学校	4	138	4	2	バス
横富小学校	4	13	1	1	バス
唐木小学校	4	42	2	1	バス
渡川小学校	4	90	3	2	バス
大成小学校	4	101	3	2	バス
拓勇小学校	4	139	4	2	バス
舞前小学校	3・4	13	1	1	バス
豊川小学校	4	59	2	1	バス
苫小牧西小学校	4	45	2	1	バス
日新小学校	3	90	3	2	バス
沼ノ端小学校	3	77	2	1	バス
苫小牧東小学校	4	35	1	1	徒歩
北星小学校	4	67	2	1	バス
美園小学校	4	63	2	1	バス
緑小学校	4	109	3	2	バス
明徳小学校	3	44	2	1	バス
勇弘小学校	4	23	1	1	バス
若草小学校	4	63	2	1	徒歩
合計		1397名	45学級	27日	

※北光小学校と鶴岡小学校は、来年度施行のため、今年度は実施しない。



今年度の更新

- ・スライドの写真を撮影し直した
→より伝えやすい写真に更新
- ・ナレーションをテープではなく
口頭で行う
→より学芸員に親しみやすく
→質問が増加

☆出前講座～市立錦岡小学校3年生の調べ学習～

内容: 苫小牧の動物および植物(45分授業の講師)



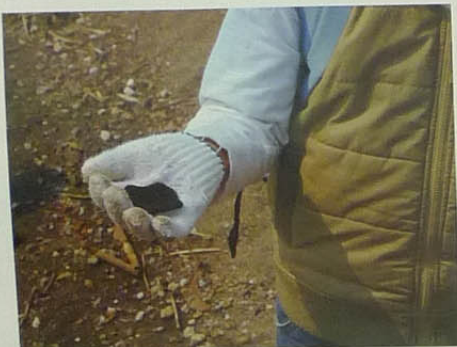
調べ学習「知っている人に聞いてみよう」で、植物を調べるグループ(36名)と、動物を調べるグループ(53名)に分かれて2つの教室で授業(6月3日)

縄文キッズクラブ

平成17年から活動が始まりました。
体験活動などを通して楽しみながら学んでいます。



平成20年4月 浮見堂遺跡分布調査



平成20年4月 浮見堂遺跡分布調査 土器発見

ボランティア活動

平成19年11月
竪穴住居（骨格復元）修復作業



平成21年6月
竪穴住居づくり（入江・高砂貝塚館）



平成21年5月
とうや湖縄文まつり

縄文キッズクラブ



平成20年5月 竪穴住居作り
（入江貝塚公園）



学校との連携（職業体験）



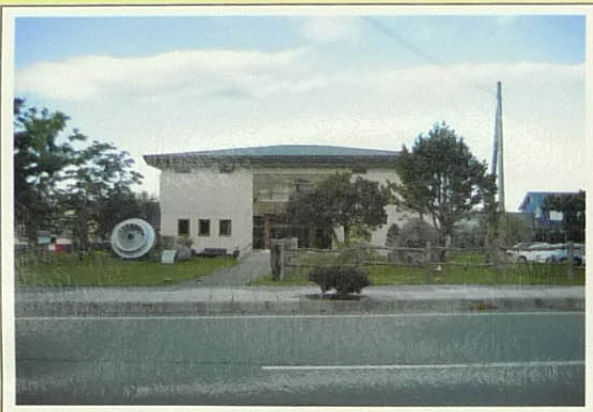
平成18年10月 虻田中学校



平成18年10月 洞爺高校

新冠町郷土資料館

見て、ふれて、感じて、学ぼう



郷土資料館の役割

- ☆ふるさと新冠の歴史・自然・民俗・文化の保存と継承をします。
- ☆資料収集・展示、調査研究を行っています。

新冠郷土文化研究会

新冠の歴史や文化を調べたり研究をしています。



にいかっぶネイチャースクラブ

新冠や日高、北海道の自然形態を観察会を通して学んでいます。



新冠町郷土資料館探検クラブ



- ☆ 子どもを対象に、新冠や日高の歴史、自然、民俗、文化を体験活動を通して楽しく学習しています。
- ☆ 学習した成果をまとめて理解を深め、展示したり発表会を行います。

ふるさと再発見講座



- ☆ 大人を対象に、北海道の博物館や自然景勝地に行って、歴史や自然を体感し学んでいます。

特別展と移動展



- ☆ テーマを設けて、収集している資料や新たに調査研究にて得られた資料を展示します。
- ☆ 資料館の他、学校や他の施設でも移動して展示することがあります。

ふるさと伝承活性化事業



- ☆ 史跡に石碑を建立したり、地域の老木に案内看板を設置するエコミュージアム活動を行っています。

- 閉館時間
9:00~16:30
- 休館日
日・月曜日・祝日
(6~11月は日曜日も閉館)

- 入館料
大人: 100円
中学生: 50円
小学生: 30円
- * 新冠町内の小中学生、もしくは教育関係団体は無料